

まちづくり懇談会内容【公開用】

日 時：令和2年11月2日（月）18：30～20：10

場 所：三日月公民館

出席者：13人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. これからのまちづくり（資料1参照）

- ・栗山赤十字病院の改築について

4. 懇談

5. その他（情報提供）

（1）光回線の全面開通について

（2）栗山高等学校と介護福祉学校の状況について

（3）新型コロナウイルス感染症対策について（資料2参照）

・町民の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料2-1参照）

・事業者の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料2-2参照）

・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（資料2-3参照）

（4）空き家の情報提供について

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築について】

町長：建て替えについて、正式な基本設計はこれからだが、いろいろなコンサルタントも入ってきて提案してもらっている。栗山赤十字病院の南側に建築して、駐車場側を解体する。西側の人工透析病棟はまだ新しいので、そちらの建物は活用していく。南側の看護師寮などが使われていないので、そちらを解体して、既存の建物を解体することになる。

町民：解体後の跡地は駐車場になるのか。

町長：駐車場や外構などに整備される。救急入り口も今は同じ場所にあるが、別な場所に計画していく。

町長：皆さんからいただいた意見など、すべて取り入れることはできないが、いろいろな話を聞いていきたい。

町長：他の会場で出ているものとして、整形外科の午後診療。また、眼科、皮膚科、泌尿器科は週1日が出張医しか診療していない。それらの診療科も常勤医師を配置してほしいという要望が出ている。

町民：週1回だと、通院しづらい。週2回にしてもらえると助かる。

町長：私も泌尿器科に通院していたが、週1回の診療だった。診療日以外で結石が詰まり、岩見沢の病院まで行った。

町民：整形外科は午後もやってもらえないか。仕事中にケガをしても、午後であれば診てもらえないので、長沼まで行かないと対応してもらえないことになる。

町長：常勤と出張医の2人体制で診療している。午後からは入院患者の診察などを行っているので、医師が病院にいないというわけではない。町内の診療所とも連携をして検討していく。

町民：現状で医師確保が難しいとのことだが、何か対策はあるのか。

町長：常勤が6人、非常勤が1人、どこの町も医師の確保は苦労されている。市立や町立病院は、市や町で医師を探さなければならないのが大変と聞く。栗山赤十字病院は、北海道大学とのネットワークがあるので、医師の確保は町立などと比べるとそれほど大変ではない。

町長：6年後には、病床数は100床でスタートしたい。療養病床は現状の40床を維持してほしいという意見もある。病院の経営に関わってくる。90日の入院数を超えると診療点数が減ってしまう。そういった病院経営なども考えながら検討していく。

町長：建設場所の意見はないか。建設場所はお金の問題もあるが、いろいろな意見を聞きたい。建て替え候補地として要望が出ているのは、栗山駅周辺や、栗山の地形上中間地点にあたる角田地区、富士の栗山由仁線の栗山町農産物検査場付近はどうかといった意見をいただいている。いろいろな意見を聞き検討していきたいが、現地での建て替えが有力ではないかと考えている。

町長：移転建て替えの場合、一番問題になっているのが、解体費6億円が借入金の対象にならないということ。土地の取得費なども余分にかかることになるので、なかなか難しい。

町長：この機会にいろいろな意見を聞きたいので、国に解体費用も借入金の対象にならないかといった要望を出しているが、なかなか難しい。

町民：国への要望というのは、どこにしているのか。

町長：総務省に要望をしている。なかなか厳しい。

町民：薬の受け取る場所もそのままなのか。

町長：薬局へは道路を渡って行くことになる。

町民：建て替えでさらに薬局が遠くなる。駐車場も狭い。薬局も病院内に設置してほしい。

町民：横断歩道も病院から薬局へまっすぐ付いていない。高齢者はどうしてもまっすぐ行きたがるので道路を横断しているときに危ない。

町長：薬局の建設場所について栗山赤十字病院改築準備室長が説明する。

日赤改築室長：平成6年に、医薬分業の制度ができた。院内から薬局がなくなった。院内の薬局は多くの薬剤をストックできない。また、人件費などの問題もある。院内報酬など経営が難しく、どうしても建物の外になってしまう。また、道路をまたがないと薬局を建ててはならないということもあり、同じ敷地に薬局は建てられないことになっている。

町民：つまり病院と歩道に面したところに薬局を建てればいいのか。

日赤改築室長：柵などがあれば問題はない。

日赤改築室長：薬局について規制改革などの要望が全国から寄せられているので、今後見直しがあるかと思う。

町長：今、栗山赤十字病院前には薬局が3件あるので、薬局の移設についても問題がある。

《質疑応答》

【その他（情報提供）】

町民：栗山赤十字病院でコロナの診察ができる場所はあるのか。

日赤改築室長：コロナの対応は、岩見沢市立病院が指定されているのでそちらの対応になる。病床が足りなくなれば、協力病院として栗山赤十字病院での入院などになる。

日赤改築室長：11月9日から、建物右手にプレハブを設置し、発熱外来を開設した。午前中に電話で予約をし、午後からの診察となる。PCR検査自体はできないが、検体を採取して、検査に出すことができる。2日から5日くらいで検査結果が分かる。また、唾液採取して抗体を調べる抗原検査も行える。1時間くらいで検査結果が出る。発熱などの症状があつて、医師の判断で検査を受ける場合は国が費用を負担する。自分で検査をする場合は、自己負担になるのでPCR検査で2万円、抗原検査は7500円かかる。65歳以上の人が検査をする場合の補助制度を検討している。

町民：コロナの患者は町内には出ていないのか。

町長：感染者が出れば、私のところに話が来るので、今のところ栗山からは感染者は出ていない。もし感染者が出たとしても、感染者の誹謗中傷のないような体制をとっていきたい。

町民：発熱外来がプレハブで建っているそうだが、新しい病院にもそういった隔離室の設置は考えているのか。

町長：これからの話になる。感染症法という法律があつて、北海道で指定された病院しか感染病棟は持てない。近隣では岩見沢市立病院が指定されている。岩見沢や札幌市内のホテルなどが埋まった時は、栗山赤十字病院が協力するという形での対応となる。将来的に栗山駅十字病院が感染症の受け入れを担う病院になるということではない。

町民：感染症対策が北海道は後手々々だったことが問題だった。地元の病院に、そういった対応ができることが安心感につながってくると思う。

町長：遠隔診療などが認められるようになってくるので、医療に関しても大きく変わってくる。

町民：光回線は本当に開通するのか。家が離れたところにあつて、光回線は来ないと言われたことがあつた。

副町長：全町的に整備されるので問題はない。2月頃に説明会を開く。

町長：三日月にも未整備地域がある。全町整備されるので安心していただきたい。

町長：新型コロナウイルスの支援として、国から5億7000万円が入った。町は支援として約9億円を使い、国からの補助などを除けば、実質的な町の持ち出しは5000万円くらいだった。

町民：駅前にあるレンガ倉庫は解体するのか。

町長：倉庫内にDIY工房や、FM放送局、まちなかレストランなどを開く予定。2年後くらいに開始される。建物は耐震補強される。

町長：新町通りがようやく道の整備に追いついた感じになっている。公営住宅も移転し、あと4～5年で大きく変わる。

町民：夕張橋付近の開発で、う回路として大型車が走り、道路がガタガタになっている。

町長：国道234号で桜丘から栗山高校ぐらゐまで広範囲に渡り道路を直している。もう少し期間がかかりそう。

町民：スキー場はどうなったのか。

教育長：リフト、ロッジは撤去した。今後の活用法を検討していきたい。

町民：スキー場の所有者は栗山公園になるのか。スキー場に上る階段は撤去されたのか。

教育長：スキー場は町が所有している。崖で危ないので階段は撤去した。自然保護林なので伐採などはできない。

町民：さらさらレッドの町内消費を促しながら盛り上がるような仕組みを考えてほしい。

町長：産業振興課かまちなか賑わい推進室で、連携して検討していきたい。

町民：若い生産者が頑張っている。栗山の玉ねぎをPRしてほしい。

町長：今日（11月2日）、オーロラタウンで栗山町の物産販売をしたが、栗山の玉ねぎの売り上げは好調だった。

20：10 終了